

九

本多の森の蟬時雨・アオバズク



アオバズク

「賑わう町の中にも、ゆっくりと時が流れる場所があります。ここは、金沢市本多町。加賀藩・筆頭家老だった本多家の敷地内。日が沈むと、アオバズクの鳴く声が、遠くで聞こえます。」

かいせつ

金沢市の中心部には、加賀藩の筆頭家老を務めた本多家の屋敷があり、その背後はうっそうとした森におおわれていたので、「本多の森」と呼ばれるようになりました。現在は、美術館などの文化施設が多く、藩政期からの樹木と新たな植栽が、緑濃い文化ゾーンを形成しています。本多の森には多くの野鳥が生息しており、フクロウの一種で、深緑の頃飛来するアオバズクもそのひとつです。この鳥は、ハト程度の大きさで夕刻から夜間にかけて活動し、昆虫類を主食にしています。その名前は、青葉の頃鳴き始めることからきており、「ホッポー、ホッポー」と2声づつ繰り返して鳴く声があたりにこだまします。また、緑豊かな木々はセミにとっても格好の棲み家を提供しています。初夏になると、朝夕はヒグラシが、日中はニイニイゼミの「チー」と鳴く声やアブラゼミ・ツクツクボウシがその短い命を精一杯謳歌するように鳴き、行き交う人々に夏の訪れを感じさせてくれます。本多の森の蟬時雨は環境庁の「日本の音風景100選」に認定されています。

